

# 知ってなっとく！公共事業 50万人プロジェクト

標題はプロジェクトの統一ロゴマークとして使用しています。

～ より多くの皆さんから公共事業を体感していただく取り組み～

国土交通省東北地方整備局企画部企画課



## 50万人プロジェクトとは

東北地方整備局では、平成18年度から「知ってなっとく！公共事業 50万人プロジェクト」を始動させました。

国民合意の下で良質な社会資本整備を進めていくため、普段なかなか入る機会の少ない工事現場や所管施設について、より多くの皆さんから直に見て、聞いて、触ってもらい、「公共事業」や「その現場」の理解を深めていただくという企画です。

管内の出先機関がそれぞれ目標を設定し、昨年実績より10万人多い50万人の参加を目指して取り組んでいます。



## 東北地方整備局の所管施設

東北地方整備局では、ダム、河川、道路、港湾空港、営繕、公園等の施設を44の事務所および管理所で所管しています。

表 1 東北地方整備局の主要な所管施設（直轄）

事業分野	所管施設の内容
ダム	建設中：5ダム 管理：15ダム
河川	12水系 145河川 管理延長 L = 1,623.6km
道路	14路線 管理延長 L = 2,650.1km
港湾・空港	建設中：13港湾 1空港
営繕	建設中：35施設
公園	建設・管理：1施設

県名	現場以外の所管施設
青森県	岩木川弘前地区防災 ST, 浅瀬石川ダム資料館 他 1 施設
岩手県	北上川学習交流館, 石淵ダムものしり館 他 9 施設
宮城県	三本木河川防災 ST, ふれあい学習資料館 他 7 施設
秋田県	森吉山ダム広報館, 玉川ダム展示館 他 5 施設
山形県	月山ダムインフォメーションホール, おさかな楽習館 他 9 施設
福島県	摺上川ダムインフォメーションセンター, 三春ダム資料館 他 3 施設

このほか、現場に隣接するインフォメーション施設や学習館・資料館など、事業の必要性や効果、あるいは工事の特徴や現場で採用している新技術等について詳しく説明が受けられ、誰でも気軽に立ち寄れる施設を数多く有しています。



## 事業別見学者の傾向

各事務所・管理所が実施している工事現場や所管施設の見学については、過年度までも積極的に行ってきたところであり、昨年度は約40万人の方々にお越しいただきました。

事業別で見ると、事業規模、立地条件、現地での移動の有無、隣接するインフォメーション施設の有無等から、約6割が見学条件が良好なダム事業（完成施設も含む）に集中しており、今年度目標数の上位も同様の傾向となっています。

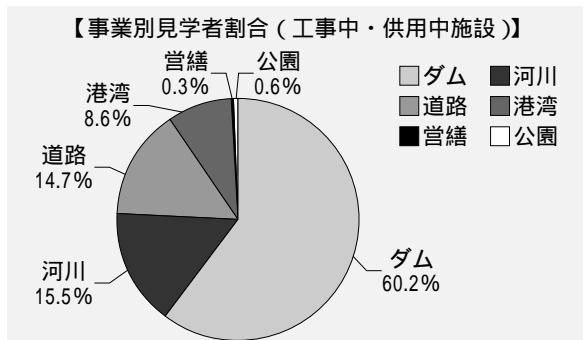


図 1 事業別見学者の割合

表 3 年間目標数 ベスト3

順位	施設名	H18目標	見学地の特徴
1	摺上川ダム (福島県)	132,000人	摺上川ダムインフォメーションセンターでダムの役割を学習できるほか、建設現場を一望できる展望所が併設されています(説明者常駐)
2	胆沢ダム (岩手県)	70,000人	胆沢ダム展望台から建設現場が一望でき、パネル等でダムの概要を学習できるほか、ダム堤体に使用される材料等が解説付きで展示されています(説明者常駐)
3	三春ダム (福島県)	62,000人	三春ダム資料館でダムの役割を学習できるほか、資料館から建設現場が一望できます(説明者常駐)



写真 1 ダム現場で超大型ダンプに試乗



写真 2 トンネル構内で掘削(切羽)状況を視察

メール通知サービスを行っています。

現場見学者の中で希望される方には、メール通知サービスへの加入(退会自由)をしていただき、イベント情報や防災情報等のメール配信を行います。現場見学後においても、折角知り得た方々とのコミュニケーションを継続していくことも重要であると考えているからです。

## 4 コミュニケーション継続の方策

(1) CPDの提供(社団法人土木学会東北支部との連携)

国土交通省が所管する現場では、高度な技術、新技術、コスト縮減への取り組みなど、専門性の高い工事を多数手がけていますが、社団法人土木学会東北支部と連携し、希望する土木技術者には自己の能力の維持・向上を目的として、最新の技術や知識を継続的に習得していることを証明するCPD(Continuing Professional Development)の提供が受けられます。

(2) メール通知サービス

現在、岩手河川国道事務所、秋田河川国道事務所、酒田河川国道事務所、郡山国道事務所の4事務所では、防災情報や冬期道路情報を中心とした

## 5 おわりに

今後も、チラシやホームページを活用しながらPR強化を図るほか、各事務所や管理所が、それぞれの事業・現場の特色を生かしながら、見学者の階層別ニーズを意識し、分かりやすい説明資料や展示物を工夫するなど、現場見学会を企画したり参加しやすい環境を整備していきたいと考えています。非日常的な体感を通して、「公共事業」への理解を深めていただくとともに、参加された方の「生涯の思い出づくり」にもなると思われま。す。「ご家族で、町内会で、課外授業で！」たくさんの方からのご参加をお待ちしております。

現場紹介や詳しい情報は「知ってなっとく!公共事業50万人プロジェクトホームページ」(<http://www.thr.mlit.go.jp/50man/>)まで。